所蔵品研究:若林奮《100の羨望》について

北谷正雄

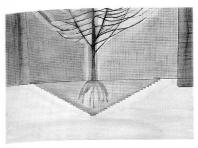


図1 《100の羨望》77

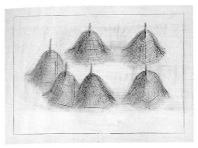


図2 《100の羨望》40

はじめに

豊田市美術館は、2002 (平成14)年度に、若林奮から101枚のドローイングの寄贈を受けた。それは、ひとまとまりの作品として《100の羨望》と名づけられている。1970年前後に描かれたこれらのドローイングからは、常に奥行きのある空間、ものやその周囲にまとわる空気のような雰囲気が伝わってくる。個々のドローイングには、実際に目にしたものを描いたと思わせるものもあれば(図1)、抽象的な思考の内容を表現したようなものもある(図2)。もっとも、具象的なモチーフといっても、それは何か借り物のような印象で、その向こう側に作家の深い思索が透けて見えるようだ。具体的な対象を描くのではなく、自分が彫刻家として思い描く概念上の空間。これらのドローイングには、若林が彫刻を制作するうえで重要と考える要素(奥行きや積み重なり、厚み、あるいは空間そのもの)が散りばめられているようだ。実際、一枚一枚のドローイングの完成度は高く、決して彫刻作品のための下絵というようなものではない。ただ、若林が思索した中身を解き明かそうとするのは容易ではない。本稿では、この《100の羨望》に対する研究の入り口として、この作品の成り立ちについて検討を加えてみることにする。

100という数字

《100の羨望》のドローイングのそれぞれには、1967年から1972年にわたる日付がつけられている。しかし、1967年の日付を持つ5枚は、1971年に再度作家によって手を加えられたと思われる日付が付されているので、実質的には1971年から1972年にかけての1年数ヶ月の間に集中的に描かれたものと捉えてよいであろう。作品の寸法も、平均して縦38cm、横53cm、ちょうど規格のB3版をひと回り大きくしたものにほぼ統一されていて、この《100の羨望》が確かに何らかの意図によってまとめられたものであることがうかがわれる。

ただ、この作品は、タイトルが示すように100枚で完結するものとして描かれたものではないようだ。まず、100という数字が、正確に100枚という意味で使われているのではないことは、この作品が101枚からなっていることから自明である。他にも〈100粒の雨滴〉や〈100線〉など、100という数字がタイトルに使われているものが、若林の作品にはいくつかあるが、当館の所蔵する《100粒の雨滴 I》は12枚の銅版を積み重ねたものであるし、蓋付の小ぶりの缶に造形物を封じ込めた〈100線〉のシリーズも、100個で1点を形成しているものと、そうでないものとが混在している。これらのことからも明らかなように、若林がタイトルに用いる100という数字は、正確な数量を表しているということはなさそうである。

また、〈100粒の雨滴〉と〈100線〉では、「100」という数字が持つ意味合いに、互いに

重ならない部分があることも事実である。3点が制作された〈100粒の雨滴〉は、作家が1973年から1年間滞欧した間に、旧石器時代の洞窟壁画を見てまわった経験から制作された。この経験から若林は、独自の空間概念を導き出すのだが、そのきっかけは、洞窟壁画が何世代にもわたって重ね描きされていること、つまりそこには時間の積み重なりがあることを感じ取ったことにある。そして地表を境界面として、旧石器時代と現代との間に積み重なった数万年もの時間の堆積を空間の厚みと意識したことが、若林の言葉に見られる。〈100粒の雨滴〉は、旧石器時代から現在までの間に地表に降り注いだ雨、その雨粒に穿たれて数万年分の地層を見せる地表面、いずれにしても、想像すらできないような膨大な時間の積み重ねを思わせる。ここでの「100」という数字は、実感としては把握できないような夥しい数量を表していると言えよう。

一方、〈100線〉はどうか。《100線》《新100線》《エクストラ100線》《新々100線》の4点が制作されたが、100個で完結したものは《新々100線》のみである。これは1995年から1997年までの3年間に集中的に制作されているが、最初に作られた《100線》は1983年から1992年までの10年間に92個、《新100線》は1992年から1996年までの5年間に36個が制作された。しかもそれらは、1992年と1993年の2年間に8個が制作された《エクストラ100線》の例外を除いて、それぞれにつけられた番号(#1、#2など)の順に制作されたわけではない。番号を前後させながら、その時々の作家の関心を缶に詰め込んだものなのであろう。したがって、〈100線〉における「100」は、「漠然と点数の夥しさを暗示すると同時に、制作しつづける当人にとっても、達成すべき到達点の意味ももっている」と解するのが妥当なようだ²。

〈100粒の雨滴〉と〈100線〉とでは、タイトルに使われている100という数字のもつ意味は、互いに重なり合いながらも、それぞれの間にはずれが生じている。これは1点で独立した作品として制作された〈100粒の雨滴〉と、いくつかの関心事をモチーフに連作として構想された〈100線〉の、その成り立ちの違いがあることはもちろんだが、作品自体が持っている性格の違いから生じる部分も大きい。数万年という気の遠くなるような時間の堆積、その茫漠とした夥しさを表そうとした「100」と、個々の関心事を連ねた多量の構成要素を結びつけるものとしての「100」、それらは概念的な思考を表したものと具体的な制作動機を表したものとでも言えよう。

では、《100の羨望》はどうだろうか。作家が思索したであろう内容が描かれた個々のドローイングを束ねるものとしての「100」という数字。それは、先に見たような〈100線〉での使われ方に通じている。また、1984年の個展で《100線》が展示されたときは《100本の地平線》というタイトルがつけられていた。「羨望」も「地平線」も作家のまなざしが向かう方向を示しているようだし、また、どちらも視野には入るが辿りつけないものを示しているようにも感じられる。「羨望」と「地平線」という言葉から受ける印象の相似は、気に留めておいてもよいのではないか。もっとも、《100の羨望》と《100線》とでは、制作年に10年余りの開きがあり、また制作時期の状況

からして、関連性を云々することは早計であるう。ここでは、「100」という数字の 使われ方を指摘するにとどめたい。

これまで、《100の羨望》の成り立ちを、若林が作品のタイトルに用いる「100」という数字を手がかりに見てきた。これら101枚のドローイングは、1970年前後の若林が彫刻の在り方を模索するなかで、いまだ彫刻というものには置き換えられない自身の思索の内容をかたちに落とし込むために描き始めたもので、相当数のドローイングを残すことを自らに課していたのだろう。もちろん、101枚というドローイングの数をもってしても、当時の若林の思索のすべてを網羅するものではないだろう。だが、作家本人が101枚のドローイングをひとまとめにしたという意味は見逃せない。というのも、この《100の羨望》は、初めから101枚であったわけではないようなのである。

裏面の書き込み

ここで、この101枚について詳細に見てみよう。別表にまとめた一覧は、《100の 羨望》の寄贈を受けたときに作家のスタジオから提供された資料と、その後に当館 でこれらのドローイングを整理、調査したときに得られた情報をもとにまとめたものである。「制作年」はスタジオから提供された資料にある日付をもとに、裏面の書き 込みにある日付で確認しながら作成した。「技法、素材」は、スタジオから提供されたものをそのまま採用している。「寸法」は、スタジオの資料を参照しながらも、当館 での調査時に採寸したものである。「画面上の書き込み」と「裏面の書き込み」は、当館での調査時に確認できたものを記載している。

裏面右上に書き込みされた「新1」から始まる「新」のついた番号が、1から101までの通し番号となっているので、これが《100の羨望》のためにつけられた番号であることはすぐに理解される。この番号は、同じく裏面に書き込みされた日付の早い順につけられている。ただ、なかには同じ日付が書き込まれているものも少なくない。その中での順番をつける基準は不明だが、同じ日付のもののなかには日付の後に丸数字が書かれていて、それらは丸数字の順に並んでいることから、ほかの同じ日付のものも何らかの基準で順番がつけられているのだろう。全体が日付順に並んでいることを考えれば、それらもある程度機械的な並び順であることは想像される。

また、日付が2つ書き込まれているものが全体で21枚ある。冒頭でも触れたように、1967年と1971年の日付を持つものが5枚あり、4年の間隔があるが、残りは数週間から長くて5ヶ月である。日付が2つあることについては、若林の彫刻作品を見ればある程度理解できる。若林の彫刻作品のタイトルには「1st Stage」、「2nd Stage」などと記載されているものがいくつかある。これは、作家が作品を一度完成させた後に、何らかの理由で、おそらくはその時点での作家の考えに近づけるために、再び手を

加えてもとの作品を改変したことを示している。たとえば、当館に所蔵されている 若林の彫刻にも《大風景(4th Stage)》と《熱変へII(3rd Stage)》があり、それぞ れの制作年は前者が「1964, 91年」、後者が「1965, 90年」となっている。制作年の前の 数字は最初に完成した年、後ろの数字は最後に手を加え改変した年である。《100の 羨望》のいくつかにある2つの日付も、これとほぼ同じように考えられるであろう。 2つの日付のうち後の日付が、作家の考えに近づけるために以前描いたものに手 を加えて改変した日付と捉えるならば、《100の羨望》の101枚のドローイングは 1971年2月から1972年4月までの1年3ヶ月の間に集中して描かれたことになる。さ らに細かく見ると、1971年2月の日付が12枚、6月が3枚、7月が37枚、8月が15枚、 9月が6枚、10月が4枚、12月が21枚、1972年4月が3枚となっており、実際に描か れたのは、1年3ヶ月の期間の半分の月数となる。しかも、1971年2月の12枚のうち 5枚は1967年のドローイングを改変したものであり、9月は6枚のうち2枚が8月に描 いたものを改変、10月は4枚すべてが8月と9月のものの改変、12月は21枚のうち 7枚が7月と8月のものの改変、1972年4月の3枚のうち2枚が前年12月のものの改変 となっており、《100の羨望》の制作が1971年の夏と冬に集中していたことが分かる。 このように見てくると、《100の羨望》は、1971年2月に若林が何らかの意図を持って 1967年のドローイングに手を加えて改変したことがきっかけとなって始められた、 一連の連作として考えられるかもしれない。ただ、そう結論づける前に、もう少し 裏面の書き込みを検討しなければならない。裏面右上にある「新」のついた番号が、 この《100の羨望》の通し番号になっていることは先に述べたが、ほとんどすべての ドローイングに、その「新」番号の上に、あるものはそのまま、またあるものは「×」や 「-」で消されたかたちで別の番号が付されている。裏面右上の端、「新」番号の上に 書かれていることから、それは「新」番号に先立って書き込まれたものであると考え てもよかろう。ここでは仮にそれを「旧」番号として検討してみよう。

新番号と旧番号は、1から32までは一致し、「新33」には旧番号はない。それ以後、番号がひとつずれたまま続き、「新40」にはまた旧番号がない。続いて2つずれた番号が「新86」「旧84」まで続く。「新87」では今度は「旧89」となり旧番号がとんでいる。以後「新89」でまた旧番号がとび「旧92」になる。「新92」と「新93」には旧番号がない。「新94」が「旧95」となり、この関係のまま「新101」「旧102」で終わっている。旧番号が「旧102」までで終わっていたのか、さらに多くのドローイングに番号が付されていたのかは不明であるし、それらが《100の羨望》としてまとまられていたのかも定かではないが、仮にある時期《100の羨望》が「旧102」までのセットであったとすれば、そこから「旧85」から「旧88」までと「旧91」の5枚が抜かれ、代わりに「新33」「新40」「新92」「新93」の4枚が加えられて、現在のかたちになったと考えられる。

さらに、裏面左下にまた別の番号が付されているものが49枚ある。これが何を意味する番号なのか、残念ながら現時点では不明だが、1973年に神奈川県立近代美術館で開催された若林の個展カタログに、《100の羨望》86(図3)が「96『観光客』18 1971」と

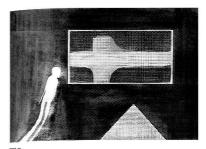


図3 (100の羨望) 86

いうキャブションを伴って図版掲載されていることが、それを解く手がかりを与えてくれるかもしれない。「観光客 18」はカタログ巻末の「デッサン・作品目録」にも目録番号96番としてリストに掲載されている。一方《100の羨望》86の裏面左下の数字は「94」である。ところで「デッサン・作品目録」には、「観光客」と題された52点の作品が、ほかの作品5点を間のところどころに挟みながら目録番号「75」から「131」までの番号が付されて掲載されていて、それらの寸法はほぼ《100の羨望》に一致する。また、《100の羨望》の裏面左下の番号で一番若いものは「73」、大きいものは「129」である。とすれば、この1973年の展覧会に出品するためにドローイングを選んでいた時点で付していた番号が、カタログ掲載時には何らかの理由で2つずつずれたとも考えられる。「観光客」と名づけられた理由も不明だが。、《100の羨望》の裏面左下に番号が付されたドローイングは、1973年の展覧会の時点ではひとまとまりのものとして展示されていたこと、そして、その52枚のドローイングから3枚が抜かれて残りの49枚が《100の羨望》へと組み込まれたという予想も成り立つのではないだろうか。

まとめに代えて

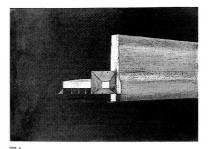


図4 《100の羨望》4



図5 (100の羨望) 69

1973年の神奈川県立近代美術館での個展は、若林にとって非常に大きな出来事であっ ただろうが、《100の羨望》の成立にとっても少なからぬ意味を持っているようだ。当 時、同館の館長であった土方定一は、新人作家の若林を高く評価していた。その 土方が、若林にドローイングを見せてほしいと声をかけた。それは1967年頃だった と若林自身が語っている。請われるままに何回も土方にドローイングを見せるのだ が、ことを重く受けとめ、「とにかく数多く見せなければいけない」と思った若林は、 やがて「数量で相手に対応しようと考え」るようになり、その思いは回を重ねるうちに ますます強くなっていったという®。そしてこの経験によって、若林は「自分が紙にな にかしら描いたものは、一応全て残しておこうと考える」ようになった[®]。1967年と いえば、《100の羨望》の最初の数点に書き込みされた日付と同じ年である。しかも、 それらには神奈川県立近代美術館の建物をイメージさせるものがある。たとえば、《100 の羨望》4の中央に小さく描かれた、ピロティを持つ建築(図4)。さらに、日付は1971 年となっているが、同館周辺を真上から見たようなものを見れば(図5)、若林がドロー イングを武器に土方に挑んだ戦いをいかに意識していたかがうかがわれる。この若 林と土方とのやり取りが、1973年の展覧会まで継続されたのかは定かではないが、 見せることを強く意識してドローイングを描くようになったことは確かなようだ。 《100の羨望》を構成するドローイングは、寸法においてもこの時期のもののなかで は抜きん出ている¹⁰。もちろん《100の羨望》だけが、土方に見せたドローイングの すべてではないだろう。100枚という数量は、若林にとってはおそらく十分な数では なかったであろうから。頭にふと浮かんだアイデアから彫刻を制作する過程で描いた

下絵のようなものまで、若林は紙に描いたものは全て残そうとしていた。そのなかには、当時の若林が重要と考えた思索を、見せることを意識して描き、ひとつの作品として完成させようとした、ある程度の大きさを持ったドローイングがあり、若林はそれを継続して相当数描くことを自分に課した。そしてやがて100枚余りになったそれらのドローイングを、作家自らが取捨選択して《100の羨望》としたのだろう。

8同上。

9同上。

19192(平成4)年度に、東京国立近代美術館が若林から寄贈を受けた1959年から1986年までのドローイング 3000枚余りが掲載された『東京国立近代美術館所蔵品目録補遺 若林奮資料』を見ても、1970年前後のものに 《100の羨望》に匹敵する寸法を持つものはない。また、その3000枚余りの全体を通しても最大級の大きさで ある。ただ、この寸法のものが同目録にないということは、《100の羨望》の成立過程で省かれたドローイング は同館に寄贈されず、作家が手元に残していたということで、それは新たな研究課題として残る。

〈別表〉

No.	制作年、技法、素材、寸法、画面上の書き込み	裏面の書き込み
1	1967, 71年 インク、クレヨン、水彩、紙 38.0×53.9cm	右上: 1/新1 右下: 1967.4.2/1971.2.5 左下: 73
2	1971年 鉛筆、インク、水彩、紙 37.9×53.7cm	右上:2/新2 左下:76/1971.2.5
3	1967, 71年 インク、クレヨン、水彩、紙 38.0×53.8cm	右上:3/新3 左下:78/1967.3.5/1971.2.6
4	1967, 71年 インク、クレヨン、水彩、紙 38.1×53.8cm	右上:4/新4 左下:1967.2.25/1971.2.6/74

[「]若林奮『境川の氾濫』雅陶堂ギャラリー、1982年、51頁。

^{2『}若林竃―1989年以後』名古屋市美術館ほか、1997年、78頁。

³『美術手帖』vol.37、no.537、1985年1月、112-113頁、及び後藤新治編「若林奮 彫刻作品総目録:1959-1987」 『若林奮:1986.10-1988.2』北九州市立美術館、1988年、目録番号185,192,193,197,247。

⁴『若林奮デッサン·彫刻展』神奈川県立近代美術館、1973年、目録番号96。

⁵そもそも、この展覧会でドローイングにつけられたタイトルは、その後なんらかの理由で放棄されている。『東京国立近代美術館所蔵品目録補遺 若林奮資料』(東京国立近代美術館、1994年)に図版が掲載され、1973年のカタログ図版と同一と確認できるものは全て、例えば《64-60》のように、制作年と制作順をもとにしたものに置き換えられている。

⁶当時の展評における土方の言葉がそれを表している。「若村奮の鉄彫刻『残り元素』は性格的な構成があり、高い密度があって、ぼくをよろこばせる」(「二科五十周年 二科展 行動展評」『朝日新聞』1965年9月15日夕刊)。 「若林奮の『自動車のなかの人喰』は、…中略…感傷を超えたこんな象徴的作品になっているのに、ぼくは驚嘆する」(「失われた造形 院展、二科展、行動展評」『毎日新聞』1966年9月15日夕刊)。

⁷「若林奮インタビュー 聞き手・市川政憲」『現代の眼 東京国立近代美術館ニュース』第482号、1995年1月、 3百

No.	制作年、技法、素材、寸法、画面上の書き込み	裏面の書き込み
5	1967, 71年 インク、クレヨン、水彩、紙 38.1×53.8cm	右上:5/新5 左下:1967.2.27/+1971.2.6
6	1967, 71年 色鉛筆、インク、水彩、紙 38.1×53.8cm	右上: 6/新6 右下: 42.3.9/+1971.2.6 左下: 79
7	1971年 インク、水彩、紙 38.0×53.8cm	右上:7/新7 左下:1971.2.9/75
8	1971年 インク、水彩、紙 38.0×53.8cm	右上:8/新8 左下:77/1971.2.14
9	1971年 鉛筆、色鉛筆、インク、水彩、紙 37.9×53.7cm	右上:9/新9 左下:1971.2.16
10	1971年 インク、クレヨン、水彩、紙 37.8×53.7cm	右上:10/新10 中央下:1971.2.17
11	1971年 鉛筆、インク、水彩、紙 37.9×53.7cm	右上:11/新11 中央下:1971.2.18 左下:107
12	1971年 鉛筆、色鉛筆、インク、水彩、紙 38.2×54.3cm	右上:12/新12 左下:1971.2.19/112
13	1971年 鉛筆、色鉛筆、インク、水彩、紙 38.2×54.2cm	右上:13/新13 右下:1971.6.8 左下:111
14	1971年 インク、クレヨン、紙 39.0×54.2cm	右上:14/新14 左下:1971.6.11
15	1971年 インク、クレヨン、水彩、紙 39.0×54.2cm	右上: 15/新15 中央下: 1971.6.27 左下: 104
16	1971年 色鉛筆、インク、水彩、紙 39.0×54.1cm	右上:16/新16 中央下:1971.7.1
17	1971年 鉛筆、水彩、紙 39.6×54.6cm 「幹、或は枝/支柱」	右上:17/新17 中央下:1971.7.6 左下:118
18	1971年 鉛筆、インク、水彩、紙 39.4×54.5cm	右上:18/新18 中央下:1971.7.7① 左下:99
19	1971年 鉛筆、インク、水彩、紙 39.6×54.7cm	右上:19/新19 中央下:1971.7.7

No.	制作年、技法、素材、寸法、画面上の書き込み	裏面の書き込み
20	1971年 鉛筆、色鉛筆、インク、水彩、紙 39.6×54.6cm	右上: 20/新20 左下: 1971.7.7/116
21	1971年 鉛筆、水彩、紙 39.8×54.8cm	右上: 21/新21 中央下: 1971.7.13① 左下: 103
22	1971年 鉛筆、水彩、紙 39.5×54.6cm	右上:22/新22 中央下:1971.7.13② 左下:98
23	1971年 鉛筆、水彩、紙 39.6×54.6cm	右上: 23/新23 中央下: 1971.7.13③/速い自動車と遅い自動車 左下: 84
24	1971年 鉛筆、インク、水彩、紙 39.5×54.6cm	右上:24/新24 中央下:1971.7.14① 左下:114
25	1971年 鉛筆、水彩、紙 39.8×54.9cm	右上:25/新25 中央下:1971.7.15
26	1971年 鉛筆、水彩、紙 39.7×54.8cm	右上:26/新26 中央下:1971.7.16① 左下:95
27	1971年 鉛筆、水彩、紙 39.5×54.5cm 「水」	右上:27/新27 左下:122/1971.7.16
28	1971年 鉛筆、色鉛筆、インク、水彩、紙 38.2×54.2cm 「近ごろ自分…(判読不能)…弱まった様に思う」	右上:28/新28 左下:123/1971.7.16
29	1971年 鉛筆、水彩、紙 39.7×54.6cm	右上:29/新29 左下:121/1971.7.16
30	1971年 鉛筆、色鉛筆、水彩、紙 39.5×54.6cm	右上:30/新30 右下:1971.7.17
31	1971年 鉛筆、水彩、紙 39.5×54.6cm	右上:31/新31 中央下:1971.7.17
32	1971年 鉛筆、水彩、紙 39.8×54.9cm	右上: 32/新32 右下: 1971.7.17
33	1971年 鉛筆、水彩、紙 39.6×54.7cm	右上:新33 中央下:1971.7.18①
34	1971年 鉛筆、色鉛筆、クレヨン、水彩、紙 39.6×54.6cm	右上:33/新34 中央下:1971.7.18② 左下:85

No.	制作年、技法、素材、寸法、画面上の書き込み	裏面の書き込み
35	1971年 鉛筆、色鉛筆、水彩、紙 39.7×54.7cm	右上:34/新35 中央下:1971.7.20① 左下:106
36	1971年 鉛筆、色鉛筆、水彩、紙 39.6×54.5cm	右上:35/新36 中央下:1971.7.20②
37	1971年 鉛筆、色鉛筆、水彩、紙 39.5×54.6cm	右上:36/新37 中央下:1971.7.21 左下:113
38	1971年 鉛筆、インク、紙 39.8×54.7cm	右上:37/新38 中央下:1971.7.22②
39	1971年 鉛筆、インク、紙 39.6×54.7cm	右上:38/新39 中央下:1971.7.22③ 左下:89
40	1971年 鉛筆、紙 39.7×54.7cm	右上:新40 中央下:1971.7.23①
41	1971年 鉛筆、インク、紙 39.7×54.7cm	右上:39/新41 中央下:1971.7.24①
42	1971年 鉛筆、インク、紙 39.6×54.7cm	右上:40/新42 中央下:1971.7.24
43	1971年 鉛筆、インク、紙 39.7×54.7cm	右上:41/新43 中央下:1971.7.25① 左下:86
44	1971年 鉛筆、インク、水彩、紙 39.6×54.7cm	右上: 42/新44 中央下: 1971.7.25② 左下: 119
45	1971年 鉛筆、インク、紙 39.5×54.6cm	右上:43/新45 中央下:1971.7.25③
46	1971年 鉛筆、インク、紙 38.2×51.0cm	右上:44/新46 右下:1971.7.26② 左下:110
47	1971年 鉛筆、インク、紙 38.7×51.3cm 「8/4/2/1/15」	右上:45/新47 中央下:1971.7.27①
48	1971年 鉛筆、インク、水性フェルトペン、紙 39.6×54.7cm	右上:46/新48 中央下:1971.7.29①
49	1971年 鉛筆、インク、クレヨン、水彩、紙 40.1×50.8cm	右上:47/新49 中央下:1971.7.30①

No.	制作年、技法、素材、寸法、画面上の書き込み	裏面の書き込み
50	1971年 鉛筆、インク、クレヨン、水彩、紙 38.7×51.2cm	右上:48/新50 右下:1971.7.30
51	1971年 鉛筆、水彩、紙 39.6×50.6cm	右上:49/新51 中央下:1971.7.30
52	1971年 鉛筆、インク、水彩、紙 38.9×50.9cm	右上:50/新52 中央下:1971.7.31①
53	1971年 鉛筆、水彩、紙 37.7×51.0cm	右上:51/新53 中央下:1971.8.1①
54	1971年 鉛筆、インク、水彩、紙 38.5×51.8cm	右上:52/新54 中央下:1971.8.3③ 左下:90
55	1971年 鉛筆、インク、水彩、紙 37.7×53.8cm	右上:53/新55 中央下:1971.8.14① 左下:109
56	1971年 鉛筆、色鉛筆、インク、水彩、紙 37.7×53.8cm	右上:54/新56 中央下:1971.8.14② 左下:120
57	1971年 鉛筆、インク、クレヨン、水彩、紙 37.6×53.7cm	右上:55/新57 中央下:1971.8.15①
58	1971年 鉛筆、インク、水彩、紙 37.6×53.7cm	右上:56/新58 中央下:1971.8.16
59	1971年 鉛筆、インク、水彩、紙 37.9×53.6cm	右上:57/新59 中央下:1971.8.17
60	1971年 鉛筆、インク、水彩、紙 37.8×53.7cm	右上:58/新60 中央下:1971.8.17
61	1971年 鉛筆、インク、水彩、紙 38.3×51.4cm	右上:59/新61 右下:1971.8.18 左下:105
62	1971年 鉛筆、クレヨン、水彩、紙 37.8×53.8cm	右上:60/新62 中央下:1971.8.19 左下:93
63	1971年 鉛筆、インク、水彩、紙 37.8×53.8cm	右上: 61/新63 中央下: 1971.8.19 左下: 91
64	1971年 鉛筆、インク、水彩、紙 37.8×53.8cm	右上: 62/新64 中央下: 1971.8.20

No.	制作年、技法、素材、寸法、画面上の書き込み	裏面の書き込み
65	1971年 鉛筆、水彩、紙 37.8×53.8cm	右上:63/新65 中央下:1971.8.22
66	1971年 鉛筆、色鉛筆、インク、水彩、紙 37.7×53.7cm	右上: 64/新66 中央下: 1971.8.22 左下: 92
67	1971年 鉛筆、インク、クレヨン、水彩、紙 38.5×51.5cm	右上:65/新67 中央下:1971.8.30②
68	1971年 鉛筆、色鉛筆、インク、紙 37.7×53.8cm	右上:66/新68 中央下:1971.9.5 左下:108
69	1971年 鉛筆、色鉛筆、水彩、紙 37.7×53.7cm	右上:67/新69 中央下:1971.9.7
70	1971年 鉛筆、色鉛筆、インク、紙 37.7×53.8cm	右上:68/新70 左下:1971.9.7/水滴を通過する雨/115
71	1971年 鉛筆、インク、クレヨン、水彩、紙 38.0×53.7cm	右上: 69/新71 中央下: 1971.8.17/1971.9.8/形のポヤケ 左下: 117
72	1971年 鉛筆、インク、クレヨン、紙 37.6×53.7cm	右上:70/新72 中央下:1971.8.22/1971.9.8 左下:97
73	1971年 鉛筆、インク、水彩、紙 37.7×53.8cm	右上:71/新73 中央下:1971.9.12 左下:96
74	1971年 鉛筆、インク、クレヨン、水彩、紙 37.6×53.6cm	右上:72/新74 中央下:1971.8.17/10.14
75	1971年 鉛筆、水彩、紙 37.7×53.8cm	右上:73/新75 中央下:1971.8.21/10.14
76	1971年 鉛筆、インク、水彩、紙 37.7×53.7cm	右上:74/新76 中央下:1971.8.21/10.14 左下:100
77	1971年 鉛筆、水彩、紙 37.8×53.8cm	右上:75/新77 中央下:1971.9.11/10.15
78	1971年 鉛筆、インク、水彩、紙 39.6×54.7cm	右上:76/新78 中央下:1971.7.14②/トンネルの位置 12.1
79	1971年 鉛筆、インク、水彩、紙 39.6×54.7cm	右上:77/新79 中央下:1971.7.26③/12.1

No.	制作年、技法、素材、寸法、画面上の書き込み	裏面の書き込み
80	1971年 鉛筆、水彩、紙 39.5×54.7cm	右上: 78/新80 中央下: 1971.7.21/12.4
81	1971年 鉛筆、インク、水彩、紙 39.6×54.6cm	右上:79/新81 中央下:1971.7.22①/12.4
82	1971年 鉛筆、色鉛筆、インク、水彩、紙 38.7×52.8cm	右上:80/新82 右下:1971.7.29③/12.5
83	1971年 鉛筆、インク、水彩、紙 37.7×53.8cm	右上:81/新83 中央下:1971.8.14③/12.5
84	1971年 鉛筆、色鉛筆、インク、水彩、紙 37.6×53.7cm	右上:82/新84 中央下:1971.9.5/12.5
85	1971年 鉛筆、インク、水彩、紙 37.7×53.8cm	右上:83/新85 中央下:1971.12.7
86	1971年 鉛筆、インク、水彩、紙 37.6×53.6cm	右上:84/新86 中央下:1971.12.11 左下:94
87	1971年 鉛筆、クレヨン、水彩、紙 39.6×54.6cm	右上:89/新87 中央下:1971.7.29②/12.12
88	1971年 鉛筆、インク、水彩、紙 37.7×53.8cm	右上:90/新88 中央下:1971.12.13
89	1971年 鉛筆、クレヨン、水彩、紙 39.6×54.5cm	右上:92/新89 中央下:1971.12.24
90	1971年 鉛筆、水彩、紙 39.6×55.0cm	右上:93/新90 中央下:1971.12.24
91	1971年 鉛筆、水彩、紙 37.8×53.8cm	右上:94/新91 中央下:1971.12.24 左下:102
92	1971年 鉛筆、色鉛筆、水彩、紙 37.7×53.7cm	右上:新92 右下:1971.12.24
93	1971年 鉛筆、水彩、紙 37.7×53.8cm	右上: 新93 右下: 1971.12.24
94	1971年 鉛筆、インク、水彩、紙 37.7×53.8cm	右上:95/新94 中央下:1971.12.26

0
S
_
-
Art
1
~
-
of
-
_
E
sen
-
~
CO
\supset
<
2
8
0
0
=
E
3
<
~
723
TO.
+
0
>
0
Toyota
5
4
of
Z
~
_
-
ш
- 1
_
BULI
\supset
~
ш

No.	制作年、技法、素材、寸法、画面上の書き込み	裏面の書き込み
95	1971年 鉛筆、インク、水彩、紙 37.7×53.8cm	右上:96/新95 中央下:1971.12.26
96	1971年 鉛筆、インク、水彩、紙 37.9×53.8cm	右上:97/新96 中央下:1971.12.27 左下:126
97	1971年 鉛筆、クレヨン、水彩、紙 37.7×53.8cm	右上: 98/新97 右下: 1971.12.29
98	1971年 鉛筆、クレヨン、水彩、紙 37.7×53.8cm	右上:99/新98 右下:1971.12.30 左下:87
99	1971, 72年 鉛筆、インク、クレヨン、水彩、紙 37.8×53.8cm	右上: 100/新99 中央下: 1971.12.26/1972.4.21 左下: 127
100	1971, 72年 鉛筆、インク、紙 37.8×53.8cm	右上:101/新100 中央下:1971.12.28/1972.4.21 左下:129
101	1972年 鉛筆、インク、紙 37.7×53.8cm	右上:102/新101 中央下:1972.4.22 左下:128

^{※「}書き込み」の記載にある「/」は改行されていることを示す。